

「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

1. 実施主体	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	NPO法人JAE
2. 現状及び課題	
地域内でのキャリア教育に関する現状	<p>東大阪市におけるキャリア教育に関する現状については、</p> <p>(1) 小学校・中学校におけるキャリア教育の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全26中学校区においてキャリア教育の年間計画が策定されており、それぞれ校区ごとに「めざす子ども像」に向けた様々な取組みが行われている。 ・NPO東大阪地域活性化支援機構が東大阪市から委託を受け、年間5,000名程度市内の小学生へ「モノづくり体験教室」という出前授業を実施し、小学生がモノづくりの楽しさを授業の中で体験できる機会づくりを行っている。 ・市内の中学校全てで職場体験学習が行われており、中学生が働くことや仕事について、地域の中で実体験できる取組みが行われている。 ・学校外においては、製造業を中心とする約70社を束ねる「東大阪ブランド推進機構」が「モノづくりひろば」という子供たちにモノづくりの楽しさを気軽に体験できるイベントが2013年12月より実施され、学校外でもモノづくりを体験できる機会が増えつつある。 <p>(2) 高校におけるキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東大阪市立日新高校においては、毎年2年生の夏休みにインターンシップとして数名が東大阪市役所に実習を行うほか、大学進路希望者全員が大学見学を行う機会づくりを行うなど、生徒の進路にあわせた指導や機会づくりを行っている。 ・大阪府立布施北高校では、普通科では全国唯一の「デュアル学科」という地域の事業所へ年間を通じてインターンシップを行うカリキュラムを実施運営しており、地域一体となったキャリア教育の実践を行っている。 ・布施工科高校、城東工科高校では、実習やインターンシップを中心とした実践的なキャリア教育を展開している。 ・府立高校においては、教科学習や進路指導に重点をおいて各校特色のある教育を展開している。 <p>などがみられる。</p>
地域内でのキャリア教育に関する課題	<p>(1) 小学校・中学校におけるキャリア教育に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO東大阪地域活性化支援機構が小学生を対象にした「モノづくり体験教室」という出前授業は、毎年5,000名の児童へ体験教室を行っているが、学校側の要望は約10,000名ほどあり、需要に対して5割程度しか実施されていない現状がある。 ・中学校のキャリア教育の柱である職場体験活動において、受け入れ事業所の業種・職種の内訳は販売や飲食、サービス業や福祉・公共施設などの比率が90%を超え、製造業は約5%にとどまっており、市全体として掲げている「モノづくりのまち」としての地域資源が活かされていない。 ・現場教職員は独自でキャリア教育の取組を行っているが、「東大阪ならではの地域資源を活かした特色あるキャリア教育の推進」には至っていない。その背景には教職員自身が東大阪における地域資源や魅力を知らないことが大きいといえる。 <p>(2) 高校におけるキャリア教育に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校では進路指導・インターンシップなどキャリア教育の取組を各校で行っているが、現場教職員の力量に委ねられている現状があり、学校・地域のニーズと産業界の支援提供者の情報が集約・可視化・仕組化されていない。

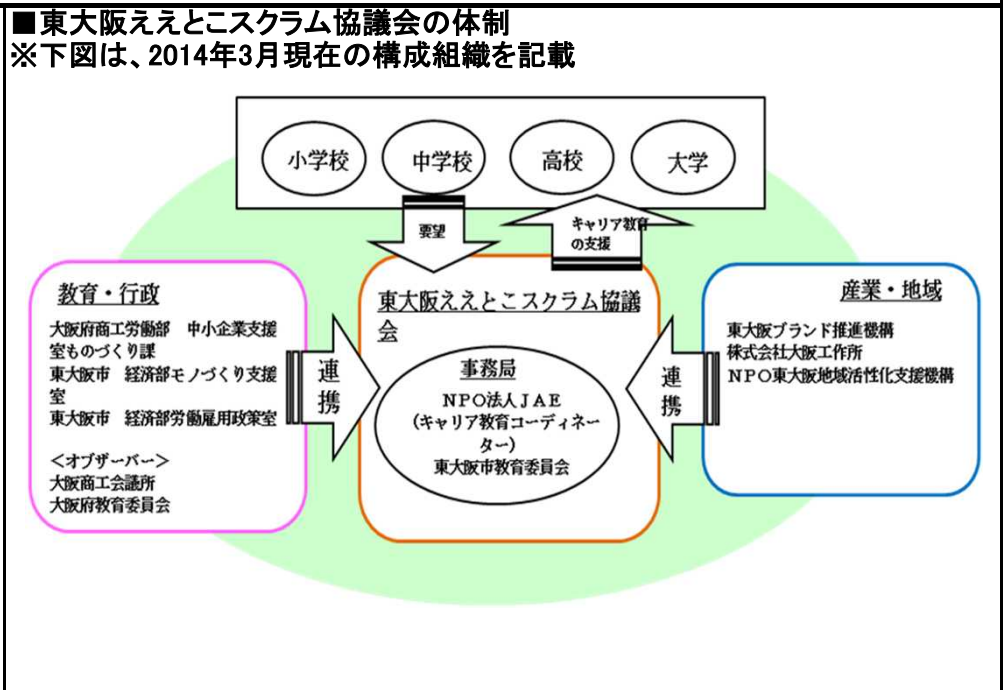
(3)その他

・キャリア教育を考える上では、東大阪にある製造業の大半はBtoBが主体であり、部品など普段目に見えないものや1社では完成しないものを扱っている企業が多いが故に、子供たちにとっては分かりにくいものである、というのは今後モノづくりを通じたキャリア教育を拡充させていく上では課題であるといえる。
 ・今後の経済情勢を考えると、大企業に大量に人材が登用される時代は終わり、中小零細企業の1社ごとに1名を採用するという登用が主流になってくると思われる。その意味では、従来のように画一的なキャリア教育を供給することと同時に、ニーズに即した多種多様なキャリア教育の支援が必要になってくることは、学校教育で展開する上での課題であるといえる。
 ・中小企業白書(2011)によると、製造事業所が減少・廃業する理由としては、「適切な後継者の不足」が資産超過の企業でも30%にのぼり、事業の担い手不足が深刻である。これは学校教育における人材育成(キャリア教育)を行う上で産業界側のニーズにどう対応していくかは課題だといえる。

3. 委託内容に対する取組

(1)学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営

地域の推進体制
 (図などを用いて地域全体の体制が分かるように示すこと)



協議会の構成

団体名	役割
東大阪ブランド推進機構	東大阪のモノづくり企業の代表組織 (今後の産業界側の連携・協働窓口として)
株式会社大阪工作所	地元の産業界(特に経済同友会)との連携 窓口 (職場体験・インターンシップの拡充および 企業への啓発活動を行う際の連携窓口)
NPO東大阪地域活性化支援機構	子供へのキャリア教育支援を行っている地 域団体として
大阪府商工労働部 中小企業支援課もの づくり課	大阪の中小企業・モノづくりを支援するお立 場およびMOBIO担当者として(協議会への 指導助言協力など)
東大阪市 経済部モノづくり支援室	行政として企業支援を行うお立場として
東大阪市 経済部労働雇用政策室	行政として雇用・就職促進を行うお立場とし
東大阪市教育委員会 学校教育推進室	小中学校との連携・推進窓口として・実務
東大阪市教育委員会 人権教育室	小中学校との連携・推進窓口として・実務
東大阪市立小中学校校長会	小中学校との連携・協力組織として
東大阪市立日新高等学校	市内でのキャリア教育推進における連携・ 協働校として

	大阪商工会議所 人材開発部人材育成担当	<オブザーバー>大阪キャリア教育ステーションのノウハウを活かした産業界側のアドバイザー
	大阪府教育委員会 市町村教育室小中学校課	<オブザーバー>大阪府の学校教育を推進者として教育界側のアドバイザー
	NPO法人JAE	事務局運営・キャリア教育の実践におけるマッチング、コーディネート全般
目標	<p>※地域における課題解決のために、協議会の目標を設定すること</p> <p>東大阪ええとこスクラム協議会では、地域一体となり東大阪における地域人材の育成を見据えた包括的な次世代育成支援を行い、主に6,000社ある市内の製造業の後継者不足(事業承継者不足)という産業界側の課題にも対応しながら、地域で暮らし、地域に根ざした事業所で働く人が生き生きと輝ける東大阪のまちの実現をめざす。</p>	
方針	<p>※目標達成に向けて、協議会の取組方針を設定すること</p> <p>(1)包括的な次世代育成支援の具体策として、5年後を目途に、義務教育段階における東大阪独自の(A)「地尊感情を育むキャリア教育」および高校段階以降の(B)「東大阪の未来を担う地域人材の育成」を展開するために、1,000人の担い手づくりと500社の体験(協力企業)づくりおよび実施体制の整備を進める。</p> <p>(2)(A)「地尊感情を育むキャリア教育」については、小中9年間続く東大阪独自のキャリア教育施策実現のために、2014年度はモデル中学校区を定め、小学校と中学校で導入可能なプログラムづくりに着手する。</p> <p>(3)中学校における職場体験活動先の製造業の割合をあげることを目的に、モデル校区での製造業の受け入れ先の開拓および職場体験活動の内容改善を、現場の教職員とキャリア教育コーディネーターが協働で行う。</p> <p>(4)(B)「東大阪の未来を担う地域人材の育成」については、産業界側の主な課題である製造業の後継者不足(事業承継者不足)を解決するために、①経営者育成 ②生産技術者育成の2種類の後継者育成について、地元企業へインタビューし、高校段階へのキャリア教育としてのアプローチについて仮説づくりを行う。</p> <p>(5)本協議会の認知を「東大阪ええとこスクラムBOOK」の活用やフォーラム開催等を行いながら学校に訴求し、東大阪市内全域の小学校・中学校・高校のニーズの可視化と支援提供者とのマッチング・コーディネートを積極的に行い、協議会の果たす役割や必要な機能の明確化を行う。</p>	
事業の自立的かつ発展的な運営体制	<p>(1)協議会の事務局および全体コーディネート(関係組織との関係性構築など)・マネジメントおよびキャリア教育実践のマッチングをNPO法人JAEが行い、東大阪市内教育委員会は独自のキャリア教育プログラムの体系化および体制構築(主に学校現場との連携)を中心に担うことで効率・効果的な協議会運営を行う。</p> <p>(2)協議会継続のための予算確保は大きな課題であるが、2014年度は引き続きNPO法人JAEが東大阪市内教育委員会と連携しながら実務を担い、また2015年度以降の自主財源確保に向けての方針を、協議会の幹事にも指導助言を受けながら定めていき、自立化に向けて進めていく。</p>	
(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進		
①支援を提案する支援提供者を開拓すること		
<p>「東大阪ええとこスクラムBOOK」を活用しながら、市内の事業所へ自社の広報戦略として教育活動へ参画することを訴求しながら、市内の事業所の開拓を行った。</p>		
②支援に関する提案を学校に提示すること。		
<p>(1)小中学校においては、7/4校長会にて、「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へキャリア教育のコーディネート支援メニューを提示し活用を働きかける。</p> <p>(2)高校においては、東大阪市立日新高校および、府立高校のキャリア担当者へ向けて「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へキャリア教育のコーディネート支援メニューを提示し活用を働きかける。</p>		

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

②より、中学校1校、小学校3校からコーディネート依頼が生じ、以下のコーディネートを行う

- (1)高井田東小学校にて5年生を対象に「自尊感情を育む工場見学プログラム」のコーディネート(企業開拓&紹介、プログラム提案、授業支援)
- (2)弥刀中学校にて、1年生を対象に「自尊感情を育む職業講話プログラム」(職業人の開拓&紹介、プログラム提案、授業支援)
- (3)森河内小学校にて、4年生を対象に「自尊感情を育む1/2成人式につながる職業講話プログラム」(職業人の開拓&紹介、プログラム提案、授業支援)
- (4)長堂小学校にて「自尊感情を育む工場見学プログラム」のコーディネート(企業開拓&紹介、プログラム提案、授業支援)

(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進

①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。

中学校のキャリア教育の柱である職場体験活動において、受け入れ事業所全体のうち製造業の割合は全体の約5%にとどまっていることから、市全体として掲げている「モノづくりのまち」としての地域資源が活かされていない現状を改善するために、東大阪ブランド推進機構や地元の経済同友会と連携し、小中高の児童生徒の教育活動の場として製造業での協力企業の開拓を中心に市内の事業所の開拓を行い、受入企業候補のリスト化を行った。

②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。

- (1)小中学校においては、7/4校長会にて、「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へ職場見学メニューやインターンシップメニューを提示し活用を働きかける。
- (2)高校においては、東大阪市立日新高校および、府立高校のキャリア担当者へ向けて「東大阪ええとこスクラムBOOK」を用いて協議会の周知を行い、各校区へインターンシップメニュー等のコーディネート支援メニューを提示し活用を働きかけた。

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

2014年度は協議会や提供メニューの周知と共に、各学校の現状をインタビューし現状認識を行った。2015年度以降具体的な支援を行っていく学校との関係づくりを行った。

(4)その他の取組

- (1)市内の各中学校区のキャリア教育担当者向け研修として、地元の魅力を発見する町工場へのフィールドワーク研修を実施し、教職員が地域資源を理解し、授業を通して子供たちへ地域の良さを伝える技能の向上をはかった。
- (2)企業へのキャリア教育支援を促進するための啓発活動を個別企業へ行き、2014年度は6社がキャリア教育の取り組みに協力した。
- (3)5月にNPO法人JAEと協働で企業向けの啓発セミナーを行い、企業向けの意識啓発や価値の発信を行った。

4. 実施内容

実施時期	実施内容
2014年5月～	協議会としての事業推進をスタート
2014年5月～	東大阪市経済部と連携し、市内で学校教育に協力する企業を調査
2014年5月23日	NPO法人JAEと協働で企業啓発のセミナーを開催
2014年7月4日	東大阪市校長園会にて「東大阪ええとこスクラムBOOK」を配布し、協議会を周知
2014年8月28日	東大阪市内の小中教職員を対象に「東大阪市キャリア教育研修」として中小企業フィールドワーク研修を実施
2014年9月	布施工科高等学校をインタビュー訪問
2014年9月～12月	経済部と連携し調査した企業リストをもとに、授業実践に協力する企業開拓を実施
2014年10月9日	協議会の幹事メンバーへ上半期の進捗報告と共に活動についての意見交換を行う会議
2014年10月	東大阪市独自のキャリア教育プログラムを開発
2014年11月	弥刀中学校にて職業講話の授業をコーディネート
2014年11月8日～9日	島根県雲南市へ視察訪問
2014年11月～12月	高井田東小学校にて工場見学プログラムの授業実施
2015年1月16日	森河内小学校にて1/2の成人式につながる職業講話プログラムをコーディネート
2015年1月21日	平成26年度キャリア教育推進シンポジウムへ参加
2015年1月～2月	長堂小学校にて工場見学プログラムの授業実施
2015年3月24日	2014年度協議会定期総会を開催

5. 協議会の成果と課題

※計画段階で示していた
検証方法を踏まえ、客
観的・具体的に記載する
こと。
※成果を踏まえた今後
の課題についてもあわ
せて記載すること。

■成果

- ・東大阪独自のキャリア教育プログラム「自尊感情を育むキャリア教育プログラム」の具体カリキュラムを小学校・中学校からの依頼に応じ開発・実践を行った。その結果、参加児童・生徒の「東大阪への愛着・誇り」が強まったことがアンケートから読み取れ、一定の成果をあげた。
- ・中学校のキャリア教育の柱である職場体験活動において、受け入れ事業所全体のうち製造業の割合は全体の約5%にとどまっていることから、市全体として掲げている「モノづくりのまち」としての地域資源が活かされていない現状を改善するために、市の経済部や地元の経済団体と連携し、工場見学の受け入れ候補企業327社、職場体験の受入候補企業163社のリスト化が実現し、次年度以降に数値を改善していく見通しがもてた。またこのリストから今年度はあたらに6社の企業が学校への教育活動に協力をいただき、企業にとっても一定の満足度を得る取り組みが実現した。
- ・8月に実施した、市内の教職員対象の「キャリア教育研修」では、座学ではなく地元の魅力的な企業へ訪問する「フィールドワーク型」の研修を行った。参加した教職員は、アンケートから「地元の魅力の再発見」や「ものづくりの良さ」へ一定の気づきを得た研修となり、教職員対象の「自尊感情を育む研修」として実績を生めた。
- ・11月に島根県雲南市へ視察訪問を行い、行政が位置付けた市独自のキャリア教育の取り組みを学び、また全国の様々な関係者と意見交流をする中で、2015年度の協議会の活動について知見を得ることができた。

■課題

- ・小学校、中学校ではキャリア教育プログラムのマッチング・実践コーディネートが実現したが、高校においては接点をもち現状をインタビューするに留まり実際にマッチング・コーディネートまで至らなかった。
- ・協議会の活動の骨子策定・実践に注力をおいたことで、継続的な自立化に向けた運営方法の方針などが定められなかった。
- ・高校と連携した実践は年度内は行えなかったもので、高校との具体的な連携・支援については課題として残った。